

## (令和2年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター	令和2年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

## 基本事項

所管局課	産業観光局クリエイティブ産業振興室	本市出えん金	54,000 千円
基本財産/資本金	90,000 千円	本市出えん率	60.0 %

## 「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	自律化	目標年度	令和2年度
-----	-----	------	-------

## 「今後の方向性」に向けた基本的方針

業務面	勸業館利用者の満足度の向上、また、積極的な営業活動により稼働率50%以上を確保することで、安定した会社経営を維持し、企業としての信頼度を高め、勸業館指定管理者の継続的な受託を目指す。
財務面	堅実な経営のもと継続的な利益の確保に努め、自己資本の更なる充実を図る。
組織面	業務知識・経験を効果的に活用・継承することで、社員の能力・資質向上に努め、組織の活性化を図る。
その他	京都市勸業館の老朽化した施設、設備の改修について、施設所有者である京都市に対し、これまでの施設管理ノウハウを活かし、利用者の目線に立った効果的な改修計画の提案を行う。

## 当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>50.0%以上の安定した稼働率を確保するためには、地元はもとより他府県の新規顧客を獲得し、固定客化していくことが不可欠であり、引き続き積極的な情報収集と営業活動に取り組み、成果に結び付けていただきたい。</p> <p>ミュージアムショップをリニューアルし、商品構成やショップコンセプトの見直しによる顧客層拡大を図るなど、勸業館の利用促進に向け積極的に取り組まれている点は非常に評価できる。</p> <p>今後も、京都伝統産業ミュージアムとの連携強化による来館者数の増加と顧客満足度の向上、経営の効率化による利益率向上、閑散期対策における自主企画事業の充実等により、引き続き、黒字の確保を目指していただきたい。</p>
-----	---

## 当年度の「今後の方向性」の進捗状況及び各取組に対する総括(※)

団体	<p>○業務面、財務面においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け大変厳しい年度となった。稼働率は開館以来最低の20.26%に止まったが、コロナ禍において催事主催者の負担軽減となる取組を行い稼働率の確保に努めた。</p> <p>税引前当期純利益は△128,699千円となり、純資産が減少したことから、資金繰りの悪化を防ぐため制度融資を借り入れた。</p> <p>○組織面については、専門的なスキルを有する役職社員（非常勤）を採用するなど、柔軟な働き方に対応し、業務知識・経験を効果的に活用できる組織づくりに努めた。</p> <p>○その他の取組では、会社独自の施設の改修として、分かりにくい館内外の案内看板の刷新（2年度、3年度の継続事業）に取り組んでいる。</p>
所管局	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、施設の閉館、相次ぐ施設利用キャンセルにより税引前当期純利益は△128,699千円の大幅な赤字となったが、催事主催者等とともに感染拡大を徹底し、状況を見ながら催事開催をサポートしていくなど営業面での対策に加え、補助金の活用や管理費の削減に取り組むなどの経営努力をしていただいた点は評価できる。</p> <p>今後も、見通しは不透明であるが、京都伝統産業ミュージアムの来館者増や同ミュージアムを核として実施する事業の充実と、勸業館の利用促進に係る取組の相乗効果を生み出すことにより、収入の確保に努めるとともに、経営の効率化による利益率向上、閑散期対策における自主企画事業の充実等により、コロナ禍における安定した経営に取り組んでいただきたい。</p>

(株)京都産業振興センター	令和2年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

本市の出えん率引下げに向けた実施計画			
中期経営計画における取組内容	平成30年度	令和元年度	令和2年度
		具体化に向けた調整	具体化に向けた調整
当年度目標	当年度中に本市の出資比率を25.0%未満にし、(株)京都産業振興センターの自律化を達成する。		
当年度結果(※)	自律化について、新型コロナウイルス感染症の影響により財務状況が悪化し、当社の企業価値が下がったことなどにより、京都市所有の株式の売却が実現せず、自律化を達成できなかった。		

### (1)業務に関する取組

目標「京都市勤業館の利用促進」	
中期経営計画における取組	京都岡崎MICEスクエアの拠点施設として、積極的な営業活動を展開し、大型催事の誘致を目指す。営業機会を逃すことのないよう数年先を見越した情報収集に努める。また、利用者にとって「使いやすい施設であること」を最優先に、利用者の要望に対応していくことにより企業としての信用度を高める。
当年度目標	○新規大型催事及び平日利用催事の積極的な誘致と既存事業者の継続利用に取り組むことで、目標稼働率（53.50%）の達成と利益率の向上を目指す。 ○リニューアルオープンする京都伝統産業ミュージアム及びミュージアムショップについて、知名度の向上を図るため、ミュージアムを運営する（公財）京都伝統産業交流センター（以下「財団」という。）との連携を強化し、来館者の増加につなげる。 ○マーケティング手法を強化することで、顧客満足度の向上を目指す。
当年度結果(※)	○新型コロナウイルス感染症の影響を受け、稼働率は20.26%に止まったが、空調機の換気性能を向上させるための改修をはじめとした衛生環境の整備等、コロナ禍にあっても利用者に催事を開催していただけるよう催事主催者の負担軽減となる取組を行い、都度最新の感染予防対策ガイドラインを発信して利用促進、稼働率の確保に努めた。 ○昨年3月にリニューアルオープンした京都伝統産業ミュージアムショップについては、ミュージアムとの連携を強化してきた。ミュージアムの展示商品の売上がショップ売上に占める割合は拡大しており、連携はうまく進んでいると考える。

指標	展示場の面積稼働率 (単位：%)							
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
中期経営計画	—		53.00		53.50		54.50	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	55.00	55.12	53.00	52.85	53.50	55.00	54.50	20.26

## (令和2年度単年度経営計画)

(株)京都産業振興センター	令和2年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

## (2)財務に関する取組

主要財務数値							(単位:千円)
	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	
経常収益	697,100	708,634	704,200	710,900	717,000	462,212	令和2年度は、特別利益 189,297 特別損失220,458 の計上あり。
経常費用	677,600	681,865	684,000	691,400	698,500	559,750	
経常利益	19,500	26,769	20,200	19,500	18,500	△ 97,538	

目標「税引前当期純利益の確保」	
中期経営計画 における取組	<p>市への納付金の支払いを確実に履行したうえで、京都市勸業館指定管理者の公募選定時の提案に記載した額を上回る税引前当期純利益（収支差額）が確保できるよう、収入の増加、経費の節減に努める。</p> <p>（平成29年度末に京都館が閉館したことに伴い、京都館事業は終了した。）</p>
当年度目標	<p>○新規大型催事及び平日利用催事の積極的な誘致に取り組むことで、利用料の増収を図る。</p> <p>○イベントサポート・サービス事業を強化することで、催事運営に係る顧客満足度を高めるとともにこれに伴う付加収入の増加につなげ、一催事当たりの利益率の向上を目指す。</p> <p>○リニューアルオープンした京都伝統産業ミュージアムショップについて、ミュージアムを運営する財団との連携を深化させ、来店者の増加を図り売上増につなげる。</p>
当年度結果 (※)	<p>○コロナ禍において利用の取り止めが相次ぐ中で、催事主催者のリスク負担を軽減するとともにストレスフリー化を図るため、新型コロナウイルス感染症予防対策及び開催支援に対する種々の取組を行ってきたが、取消利用料を含めても施設利用料収入は前年度よりも150,756千円減少した。</p> <p>○人件費をはじめとする経費の削減に取り組むとともに、補助金の積極的な活用により収支の改善に努めた。また、特別損益としては、京都市は上半期は取消利用料の全額を、下半期は当社が半額を負担することを前提に市も半額を催事主催者に補償されたので、当社は催事主催者への還付金220,458千円の支出に対し、還付補償金として189,297千円を収入することができた。</p> <p>○リニューアルオープンした京都伝統産業ミュージアムショップについては、ミュージアムとの連携はうまく進んでおり、お買上客単価は上昇しているものの、コロナ禍にあつて商品売上額は目標に遠く及ばなかった。</p>

指標	税引前当期純利益							
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
中期経営計画	—		19,500		20,200		22,700	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	33,000	26,288	19,500	21,051	20,200	17,900	22,700	△ 128,699

(株)京都産業振興センター	令和2年度経営計画 兼 経営努力結果
---------------	-----------------------

## (3)組織に関する取組

## 目標「適切な人員配置及び個々の業務遂行能力の向上」

中期経営計画 における取組	業務量に見合った社員の配置見直しを行うことにより業務の効率化を図るとともに、社員のスキルアップを図るための研修を実施する。
当年度目標	○業務の専門性及び業務量に見合った人材の適切な配置により業務の効率化を図る。 ○社員はもとより、京都伝統産業ミュージアムを運営する財団職員等をはじめ、館内協力企業従事者を含めた研修を行うことで、京都市勸業館全体としての資質の向上を目指す。
当年度結果 (※)	○専門的スキルを有する役職社員（非常勤）の採用など、柔軟な働き方に対応し、業務知識・経験を効果的に活用できるように努めた。 ○コロナ禍において派遣研修は実施できなかったが、管理職対象のズームによる研修を行った。また、伝統産業ミュージアムを管理する財団法人の職員と合同で財務の仕組みに関する社内研修（勉強会）を実施した。

指標	効果的な研修の実施 (単位：回)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	3回以上		2回以上		2回以上		2回以上	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	3回	3回	2回以上	4回	2回以上	2回	2回以上	2回

## (4)その他の取組

## 目標「京都市勸業館改修計画の実行支援」

中期経営計画 における取組	施設、設備の改修、修繕について、京都市勸業館の管理に関する協定書に規定された市との役割（負担）区分に基づき、これまでの指定管理者としてのノウハウを活かした提案を行う。
当年度目標	京都市が策定された改修基本計画と連動した小修繕に迅速に対応するとともに、指定管理者としての施設管理ノウハウを活かした積極的な提案を行う。
当年度結果 (※)	京都市勸業館の管理に関する協定書に規定された負担区分に基づく緊急修繕に積極的に対応した。また、当社の設備改善事業として、コロナ感染予防対策のためのビル管理法で推奨される換気を確保するため、空調機の改修を行った。施設、設備の経年劣化等に伴う不具合箇所については、その詳細を逐一京都市に報告し、その必要性についての認識の共有を図った。

指標	特になし							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	—		提案		提案		提案	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	—	—	提案	報告、提案	提案・実施	提案・実施	提案・実施	提案・実施